

## 長期戦略:テーマ 「研究者の輩出」

提出日 2019年 8月 27日

担当部署

## II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	小菅副学長(総括) (学長室大学院課)	実施計画の 担当部署	学長室(院)
-----------------------	------------------------	---------------	--------

## 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
2-(1)-② 大学院活性化の施策	( 2019 )年度	( 2021 )年度	必要なし	不要
内容				
<p>「研究者の輩出」の底辺拡大のため、以下の3点の施策実施にて大学院の活性化を図る。</p> <p>① 学士課程・修士課程を5年で修了できる早期卒業制度について、入学後のできるだけ早い時期に学部生に周知する。</p> <p>② 日本学術振興会の特別研究員(DC1、DC2、PD)の採用者を課程後に本学の教員として採用する新たな任期制助教制度を導入する。</p> <p>③ その他の大学院活性化施策(教学補佐の制度について、大学院活性化資金の用途について等)を実施する。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	早期卒業制度を利用して学士と修士の学位を取得した学生数	当初は「5年一貫教育制度の導入」を想定していたが、現行の早期卒業制度でも優秀な学生を大学院に受け入れることが可能となっており、この早期卒業制度を利用して本学の大学院に進学した人数を指標とする。		
指標2	学部から博士課程前期課程への進学者数(仮)	(2019年度に検討予定)		
指標3				

## 目標1&lt;指標1&gt; 早期卒業制度を利用して学士と修士の学位を取得した学生数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	12	14	16	18
実績				

## 目標2&lt;指標2&gt; 学部から博士課程前期課程への進学者数(仮)

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	2019年度に検討予定			
実績				

## 目標3&lt;指標3&gt;

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標				
実績				

## 2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
早期卒業制度の 周知	策定段階	—	大学院ウィーク等を活用して学生に周知	継続	継続	継続
	2020年3月 末段階	—	—	—		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	継続	継続	継続	継続	継続
	2020年3月 末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
大学院広報媒体 の作成	策定段階	リニューアル	冊子継続 Webコンテンツ作成	Web化 (冊子は作成しない)	Web継続	Web継続
	2020年3月 末段階	2020年度大学院案内 冊子をリニューアル	—	—		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	Web継続	Web継続	Web継続	Web継続	
	2020年3月 末段階					

## 3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	(2021)年度	4年目以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	(2021)年度	4年目以降
非公開				

## 4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	
( ) 年度	
( ) 年度	

## 5. 今後の課題及び方向性

(2019) 年度	入試日程の一覧ページを割愛したため、Web ページの整理・充実と QR コード等による冊子からの誘導について対策が必要。 大学院の奨学金関連は 2021 年度に検討予定（学部は 2020 年度）。
(2020) 年度	
(2021) 年度	

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	Web への移行を前提条件として、大学院案内誌の発行を認めます。ただし、業務移管分から不足する金額分とします。
2019 年度	昨年と同様、2021 年度からの Web への移行を前提条件として、大学院案内誌の発行を認めます。 また、大学院ウィークの実施を認めます。ただし、ガイド内にて対応してください。
( ) 年度	